

# 上下水道DX推進事業（東京都水道局）



- ◆ 将来的な人口減少に伴う水需要低下、検針員の人材確保、省エネルギー化への社会的要請といった課題への対応に向け、スマートメータの導入を推進
- ◆ 令和4～6年度の3年間で、都内に約13万個の水道スマートメータを設置。通信成功率は約98%と実運営に支障のないレベルを実現
- ◆ 2030年代の全戸導入を目指し、令和7～10年度の4年間で国内最大規模となる約100万個を設置。これに合わせ、コスト削減や取得データの新たな活用例を創出するとともに、各種規格の標準化を図る。加えて、得られた知見を全国に発信することで、全国の水道事業体におけるスマートメータの普及拡大に貢献

## 事業概要

- **令和7年度～令和10年度（4年間）**
- **4年間で、新設栓、都有施設、公共施設（学校・公園等）、検針困難箇所などを中心に約100万個**を設置予定
- 給水区域内の下記4区分を中心に設置し、令和11年度以降は順次スマートメータへ切り替えを行っていく方針。



▲スマートメータ

**新設栓（約46万個）**  
新築住宅等については当初からスマートメータを設置。

**検針困難箇所（約21万個）**  
大口径メータや山間部などの訪問検針が難しい場所に設置。

**都施設（約32万個）**  
都営住宅などは令和10年度までの全戸導入を目指す。

**公共施設（約0.6万個）**  
学校・公園などの漏水が発見されにくい場所へ設置。

## コスト低減に向けた取組

**メータの仕様緩和や一体型メータの試行導入**  
寸法、材質による小型軽量化や、一体型スマートメータの試行導入による市場の活性化の促進による価格低減の推進

**新たな通信方法や契約方法の検討**  
効率的な運用に向けた更なる通信成功率の向上のため、通信の不具合解消に取り組むとともに、競争性を高める契約手法を検討。

**検定有効期間の延長に向けた取組**  
検定有効期間の延長について、国等の関係機関へ働きかけ等を実施。

## スマメ導入効果の創出



### 水道事業運営の高度化・効率化

自動検針の実現による検針業務の効率化、検針票のデジタル化によるペーパーレスを推進。さらに、1時間ごとの使用水量データを利用することで、管網解析の精緻化が可能となる。今後、スマートメータの導入拡大に伴い蓄積されていくデータについて、様々な角度から分析することで施設整備の最適化等に向けた検討を進める。



### お客さまサービスの向上

当局が開発した「東京都水道局アプリ」と連携した、使用水量の「見える化」、漏水通知、離れて暮らす家族の水道使用状況をお知らせする「見守り機能」に加え、今後はお客さまのニーズに基づき、節水など、生活に役立つ機能をアプリに実装する。



### 行政課題解決への貢献

「危機管理」「福祉」などの行政課題解決に寄与するデータの活用等、様々な分野の関係機関等との協働により、新たな活用方法の検討を進めていく。

## 国内の水道業界全体への影響

当局が全国に先駆けてスマートメータの大規模導入を実現し、導入価格の低減や各種標準化に向けた提言、データの更なる利活用に取り組むとともに、その成果を発信することで、全国のスマートメータの普及拡大に貢献していく。

横浜市及び大阪市と締結した協定に基づく三都市会議

水道の諸課題に係る有識者検討会など、国の会議

全国の水道事業体等で構成されるNew-Smart